

一両者足下

二の半日はベッドの上に仰向  
けに寝たぬ。こまごまのりやあひ  
まだ八時のまはすといつとも思わ  
るに、病院の夜は闇寂として  
ての、老のひよみも雷  
甘の響きまじりて入る。一付  
度か咳をする。お母さまは  
り、息いしく南下に時上  
と早更の音も聞けてほえ  
てゆく。おかりをあひ、生れ  
てのゆえに入つた病院といふ  
連物の中の、赤一夜、はし  
なくも一両者の事と思ひ  
出した。

入院したといふは、大層大勢  
褒めが、実は何でもまい、  
一月の半路からだんく

腹かふく小あした、痛くも  
痒くもなまぬ日に、腫れ  
出した、鼻が下腹の力が  
たまつたやうで、何だかえ  
げゆもあつた、次にはかえり  
て俺が肥えまつかと思つて動  
母しがつた、とこころを遂に  
それか多すの苦痛とまろえ  
ラムプの光が見ると皮が  
ピカピカする位腫れたら尤  
から、夜も目も開ておの  
うらみと大きさに、一層の  
されまへに、つかまつる、遠く  
一医者を見せよといふ鼓面  
になつた所、おれは優位  
腹脹突とつて、死病で  
はなしか難治の病を、入  
院して腹の水を抜

とらぬことは、菓を

でもおれ目がないとの話で  
あつた、おれはさうも知ら  
ないか何しろ、ちつと痛  
くないんが、かゝる病と  
一旦抗議して、おれが、捕  
はるにあくと内臓の管は  
、結果、傷病を起して死ぬ  
かとおれは、入院手場  
を済ましたの、今日の午  
後二時の出候でもあつた  
らうか

院の狭くて、仲々きり  
ない、

もつと昔くまかこつた、実  
際、院加つたぬ、おれ目だ、  
そこで頼むのは、今日の  
スバルと、創作にも言さ  
あした、おれは「橋本と草  
の件だ、おれは、僕が  
おれから、死んでやらうと  
つものおれ、おれか、親  
助を頼む、財返の、  
は僕、の、手、で、僕、  
に、い、か、な、あ、め、て、不、足  
を、お、れ、の、友、人、お、れ、  
り、の、こ、と、の、あ、つ、て、あ、る、  
の、院、は、し、え、が、三、月、の、身、  
行、向、には、必、あ、あ、つ、て、  
一、面、文、を、歌、法、一、珠、に  
短、歌、草、子、の、歌、法、を、お、  
れ、の、一、面、の、あ、つ、て、(この、方、か  
僕、の、主、題、) 現、代、社、會、阻、礙、

僕の主題) 現代社会阻礙

おれ目だ、おれはさうも知ら  
ないか何しろ、ちつと痛  
くないんが、かゝる病と  
一旦抗議して、おれが、捕  
はるにあくと内臓の管は  
、結果、傷病を起して死ぬ  
かとおれは、入院手場  
を済ましたの、今日の午  
後二時の出候でもあつた  
らうか

院の狭くて、仲々きり  
ない、

もつと昔くまかこつた、実  
際、院加つたぬ、おれ目だ、  
そこで頼むのは、今日の  
スバルと、創作にも言さ  
あした、おれは「橋本と草  
の件だ、おれは、僕が  
おれから、死んでやらうと  
つものおれ、おれか、親  
助を頼む、財返の、  
は僕、の、手、で、僕、  
に、い、か、な、あ、め、て、不、足  
を、お、れ、の、友、人、お、れ、  
り、の、こ、と、の、あ、つ、て、あ、る、  
の、院、は、し、え、が、三、月、の、身、  
行、向、には、必、あ、あ、つ、て、  
一、面、文、を、歌、法、一、珠、に  
短、歌、草、子、の、歌、法、を、お、  
れ、の、一、面、の、あ、つ、て、(この、方、か  
僕、の、主、題、) 現、代、社、會、阻、礙、

東京市本郷区  
文学病院 青山内科  
末十八号室  
二月のの旅  
石川家木